

## 三溪園展示会での花菖蒲人気品種 35、36頁の関連記事も併せてご覧ください。

夢の羽衣 Yume-no-hagoromo (江戸タイプ)



白地に青紫の覆輪の八重咲き。覆輪は細くなることも。重なりのおよい波打つ六枚の花弁に、コサージュを飾りつけたような華麗な花。一輪で際立ち、見る人を引き付けます。

耶馬台国 Yamataikoku (江戸タイプ)



花菖蒲と言えば「紫の三英花」、日本人が思い浮かべる花菖蒲です。咲き始めの深い紫が大変美しく、さらに、圧倒される迫力の大輪。高貴な紫色が、古の国に誘います。

紅扇 Beni-ōgi (肥後タイプ)



古き良き昭和生まれの花だからでしょうか、やや古風な趣があるものの、底白からの白筋が鮮やかで、平成の時代でも人気の花であり続けています。

夏姿 Natsu-sugata (江戸タイプ)



白地に紫の細脈が流れる六英花。夕涼み、縁側で、蚊取り線香の煙に団扇をバタバタ…、あるいは、浴衣で花火大会、そんな夏の光景がノスタルジックに浮かぶ花姿です。

京扇 Kyō-ōgi (江戸タイプ)



濃紅紫に白筋。鮮明なコントラストが印象的です。白筋は先端まで伸びず、覆輪になってます。舞の最中、パッと扇が広がった一瞬のように、場が華やか、艶やかな花。

西行桜 Saigyō-zakura (肥後タイプ)



「願わくば、花のしたにて春死なむ その如月の望月のころ」桜を愛した西行。「西行桜」という世阿弥のお能の桜のように、人を魅惑する、フリルあるピンク色の華麗な花です。

# 三溪園展示会での花菖蒲人気品種 35、36頁の関連記事も併せてご覧ください。

新いたこ Shinn-itako

(江戸タイプ)



江戸花菖蒲によく見られる配色パターン。一輪でも鮮やかですが、群れて咲くと、脈入りの花々が水の流れのようで、水郷潮来を思わせませす。

藍草紙 Aizōshi

(肥後タイプ)



花菖蒲の新品種を数多く作られた故平尾秀一氏の「青い花菖蒲」の一つ。輝くような青紫が、強い印象を与える花です。

小町娘 Komatimusume

(江戸タイプ)



江戸花菖蒲。江戸の小粋な娘っ子のような可愛い小中輪。花菖蒲園でよく見られますが、ぼかしが薄くなったり、脈がなく白くなったり、変化しているようです。

夕映えの朱鷺 Yūbae-no-toki

(江戸タイプ)



優しい朱鷺色の花弁が、優雅に波打ちます。水田に稲がそよぎ、空には羽を広げ巣に帰る朱鷺のつがい。弁元の濃色が、夕陽に映える朱鷺の羽色を思わせませす。

雁の天路 Kari-no-amaji

(江戸タイプ)



白地に入る細めの紅覆輪が、綺麗に列を成して空高く飛び行く雁の群れのように。この色合いと控え目なフリル、しっかりと平咲きに咲く姿、洗練された美しさです。

綾瀬川 Ayase-gawa

(江戸タイプ)



綾瀬川は、埼玉県桶川市を水源に東京葛飾に流れる河川。白地に青紫の覆輪の丸い花弁、群れて咲いた姿は、涼し気で清々しい。江戸花菖蒲の古里に、思いを寄せて。

## 三溪園展示会での花菖蒲人気品種 35、36頁の関連記事も併せてご覧ください。

乙若丸 Otowaka-maru

(江戸タイプ)



常盤御前の子「今若、乙若、牛若」の次男坊。平安末期の源平の勇猛さと公家の雅さを併せ持つような。紅紫に白筋、立弁と芯の白さがアクセントになり、とても美しい。

錦木 Nishikigi

(肥後タイプ)



菖翁から熊本に渡り改良された肥後花菖蒲。明治初期に熊本満月会で作られた古い品種です。絞りの花は古風だけれど、新しさも感じさせるようです。

舞扇 Mai-ōgi

(肥後タイプ)



明るい青紫に白筋が子筋孫筋と入ります。昭和に生まれてからずっと、変わらない人気で、スタンダードと言える品種でしょう。

清少納言 Seisyōnagon

(江戸タイプ)



昭和のマダムに絶大な人気があったという「花良し、名良し」の名花。花形の良さに加え、澄んだ明るい藤色が大変美しい花。

羽衣 Hagoromo

(肥後タイプ)



白地に青紫のほかしと微かな覆輪が入ります。ふんわりと重なる大きな花弁が、正に舞い降りた天女の羽衣。戦前の作とのことですが、古さを感じないとても優美な花です。

殿上人 Tenjōbito

(肥後タイプ)



落ち着いた紫色の六英のゆったりとした深咲き。重厚感ある花姿です。覆輪や筋(脈)入りのように派手さはないものの、紫単色の花は高貴な印象を醸し出します。